

1 基本項目	事務事業名	市道改良舗装事業				担当 部署	課名	建設課
	予算事業名	市道改良舗装事業					係名	維持管理係
	事務区分	自治事務					電話番号	0765-23-1029
	事業期間	開始年度	平成元年以前	終了年度	当面継続		会計	一般会計
	総合計画 目標名	基本目標2 安全で快適な暮らしやすいまち					科目	土木費
	政策名	7 魅力ある都市基盤の充実					項目	道路橋りょう費
	施策名	16 快適な道路機能の強化					目	道路新設改良費
	基本事業名	16-2 生活道路の整備					アウトソーシング導入状況	導入予定なし
根拠法令					総合計画等への記載	総合計画実施計画に記載		

2 事業概要	事業概要	市民がより安心して健やかに暮らせるまちづくりのため、市民生活に支障がある市道の拡幅改良、路肩改良、舗装新設等の工事を実施する。また、事業用地が不足する場合は、地元関係者と協議を行い用地補償を行う。
	対象	市内の市道
	手段 (活動指標)	市道の改良・舗装工事の実施を行う。
意図 (成果指標)	道路改良工事、舗装工事により安全性、利便性を向上させる。	

3 指標	指標名	単位	26年度		27年度			28年度
			計画	実績	計画	実績	達成率	計画
活動指標 成果指標	① 市道延長	m	402,500	404,997	402,550	411,028	97.9%	420,000
	② 道路改良延長	m	308,500.0	311,261.1	308,550.0	317,463.0	102.9%	308,600.0
	③ 舗装済延長	m	378,600	381,158	381,200	388,088	101.8%	381,300
	① 市道改良率	%	76.80	76.86	78.00	77.24	0.0%	78.00
	② 市道舗装率	%	94.00	94.11	95.00	94.42	99.4%	95.00
	③							

4 コスト情報	区分	単位	26年度		27年度			28年度
			予算現額	決算額	予算現額	決算額	決算増減率	当初予算額
支出内訳	①需用費	円						
	②委託料	円	4,000,000	2,937,476	4,104,632	4,104,632	39.7%	3,300,000
	③工事請負費	円	53,200,000	53,074,440	43,700,000	43,487,280	-18.1%	40,000,000
	④負担金補助及び交付金	円						
	⑤その他	円	2,800,000	240,104	2,195,368	215,043	-10.4%	3,200,000
	支出合計(A)	円	60,000,000	56,252,020	50,000,000	47,806,955	-15.0%	46,500,000
財源内訳	①国庫支出金	円						
	②県支出金	円						
	③地方債	円						
	④その他(使用料、雑入等)	円	41,500,000	44,349,547	45,000,000			41,800,000
	⑤一般財源	円	18,500,000	11,902,473	5,000,000	47,806,955	301.7%	4,700,000
	収入合計	円	60,000,000	56,252,020	50,000,000	47,806,955	-15.0%	46,500,000
人件費	①事務事業に携わる正規職員数	人	5	5	5	7	40.0%	7
	②年間所要時間	時間	2,000	1,760	1,760	2,140	21.6%	2,140
	③人件費(②×@ 4,400円)(B)	円	8,800,000	7,744,000	7,744,000	9,416,000	21.6%	9,416,000
	総費用(A+B)	円	68,800,000	63,996,020	57,744,000	57,222,955	-10.6%	55,916,000

5 取組内容	平成27年度に取り組んだ事務事業の内容及び改善内容	
	市道改良工事11件、 市道舗装工事6件 の実施	

6 評価	評価の視点	H26評価	H27評価	評価項目	評価結果	評価の理由
	妥当性	妥当性	A	A	自治体関与の妥当性	1 妥当である
目的の妥当性					1 妥当である	総合計画の施策に即している。
対象の妥当性					1 妥当である	総合計画の基本事業に則している。
有効性	有効性	B	B	目標達成度	1 高い	地区・住民等の要望と、事業計画に対応している。
				類似事業の有無	1 なし	他の事務事業はない。
				上位施策への貢献度	2 普通	市道を改良・舗装することで、快適な道路機能の強化に直結させている。
効率性	効率性	A	A	コスト効率	1 高い	施工方法や使用材料を精査し、コスト縮減に努めている。
				実施主体の適正化	1 適正である	法令などにより市による実施が義務付けられている。
				負担割合の適正化	1 適正である	法令などにより市による実施が義務付けられている。
	1次評価 (課長総括)	A	A	計画どおり事業を実施することが適当	2次評価	【選択してください】
	後(課題及び今後の方針)の評価結果	安全で快適な暮らしやすいまちを実現するには不可欠な事業であるため、安全性を考慮した工法を採用しながらコスト縮減を図り、現状を維持していけるように進めていく必要がある。			評価結果	

1 基本項目	事務事業名	市道青島22号線道路改良事業			担当部署	課名	建設課	
	予算事業名	道路改良事業				係名	整備改良係	
	事務区分	自治事務				電話番号	0765-23-1029	
	事業期間	開始年度	平成23年度	終了年度		平成27年度	会計	一般会計
	総合計画	目標名	基本目標2 安全で快適な暮らしやすいまち			款	土木費	
	政策名	7 魅力ある都市基盤の充実				項	道路橋りょう費	
	施策名	16 快適な道路機能の強化				目	道路改良費	
	基本事業名	16-2 生活道路の整備				アウトソーシング導入状況	導入予定なし	
根拠法令				総合計画等への記載	総合計画実施計画に記載			

2 事業概要	事業概要	市道青島22号線は、市道経田西町北鬼江線と市道仏又青島線を結ぶ路線であり、沿線住民の生活道路として利用されているが、幅員が2.5m~5m程度と狭いことから、安全な通行の支障になっている。そのため、当該路線を拡幅整備し、安全な交通空間の確保並びに市道経田西町北鬼江線と市道仏又青島線間のアクセスの向上を図るものである。
	対象	市道青島22号線の利用者
	手段(活動指標)	工事施工、用地買収、地権者との交渉
意(成果指標)	拡幅整備し、安全な交通空間の確保とアクセスの向上	

3 指標	指標名	単位	26年度		27年度		28年度 計画
			計画	実績	計画	実績	
活動指標	① 事業執行額(累計)	円	107,324,999	110,714,770	112,714,770	113,792,770	99.1%
	②						
	③						
成果指標	① 進捗率(累計)	%	100	98	100	100	0.0%
	②						
	③						

4 コスト情報	区分	単位	26年度		27年度		28年度 当初予算額
			予算現額	決算額	予算現額	決算額	
支出内訳	①需用費	円					
	②委託料	円					
	③工事請負費	円			3,078,000	3,078,000	
	④負担金補助及び交付金	円					
	⑤その他	円					
	支出合計(A)	円	0	0	3,078,000	3,078,000	0
財源内訳	①国庫支出金	円	11,599,373	11,599,373	1,692,900	1,692,900	-85.4%
	②県支出金	円					
	③地方債	円			1,200,000	1,200,000	
	④その他(使用料、雑入等)	円					
	⑤一般財源	円			185,100	185,100	
	収入合計	円	11,599,373	11,599,373	3,078,000	3,078,000	-73.5%
人件費	①事務事業に携わる正規職員数	人		5	2	4	-20.0%
	②年間所要時間	時間		560	300	440	-21.4%
	③人件費(②×@ 4,400円)(B)	円	0	2,464,000	1,320,000	1,936,000	-21.4%
	総費用(A+B)	円	0	2,464,000	4,398,000	5,014,000	103.5%

5 取組内容	平成27年度に取り組んだ事務事業の内容及び改善内容	
	工事施工、用地買収、地権者との交渉	

6 評価	評価の視点	H26評価	H27評価	評価項目	評価結果	評価の理由	
	妥当性	妥当性	A	A	自治体関与の妥当性	1 妥当である	民間によるサービスの実施が不可能なため、市による実施が妥当
目的の妥当性					1 妥当である	市道整備のため妥当	
対象の妥当性					1 妥当である	道路利用形態から妥当	
有効性	有効性	A	A	目標達成度	2 目標どおり		
				類似事業の有無	1 なし	類似事業無し	
				上位施策への貢献度	1 高い	上位施策の目標達成に貢献している。	
効率性	効率性	A	A	コスト効率	1 高い	基準に基づいて実施している。	
				実施主体の適正化	1 適正である	道路管理者以外に委託することはできない。	
				負担割合の適正化	1 適正である	市の負担は適正である。	
	1次評価(課長総括)	A	A	計画どおり事業を実施することが適当	2次評価	不要	【選択してください】
	後の評価(課題及び今後の方針)	平成27年度で完了			評価結果		

1 基本項目	事務事業名	市道緑ヶ丘線道路改良事業				担当 部署 署	課名	建設課
	予算事業名	道路改良事業					係名	整備改良係
	事務区分	自治事務					電話番号	0765-23-1029
	事業期間	開始年度	平成23年度	終了年度	平成27年度		会計	一般会計
	総合目標名	基本目標2 安全で快適な暮らしやすいまち					款	土木費
	政策名	7 魅力ある都市基盤の充実					項	道路橋りょう費
	施策名	16 快適な道路機能の強化					目	道路改良費
	基本事業名	16-2 生活道路の整備					アウトソーシング導入状況	導入予定なし
根拠法令					総合計画等への記載	総合計画実施計画に記載		

2 事業概要	事業概要	市道緑ヶ丘線は、国道8号と県道富山滑川魚津線を結ぶ道路であり、生活道路として利用されているほか、沿線には福祉施設が多くあるが、幅員が4m程度と狭いことや線形が悪いことから、安全な通行に支障を来している。そのため、当該路線を拡幅整備し、安全な交通空間の確保を図るものである。
	対象	市道緑ヶ丘線の利用者
	手段(活動指標)	工事施工、用地買収、地権者との交渉
意図(成果指標)	拡幅整備し、安全な交通空間の確保とアクセスの向上	

3 指標	指標名	単位	26年度		27年度			28年度
			計画	実績	計画	実績	達成率	計画
活動指標	① 事業執行額(累計)	円	37,583,000	12,915,800	71,261,600	81,842,097	87.1%	84,842,097
	②							
	③							
成果指標	① 進捗率(累計)	%	53	18	100	96	0.0%	100
	②							
	③							

4 コスト情報	区分	単位	26年度		27年度			28年度
			予算現額	決算額	予算現額	決算額	決算増減率	当初予算額
支出内訳	①需用費	円						
	②委託料	円			45,900	45,900		
	③工事請負費	円			68,189,680	68,189,680		3,000,000
	④負担金補助及び交付金	円						
	⑤その他	円			846,295	846,295		
	支出合計(A)	円	0	0	69,081,875	69,081,875		3,000,000
財源内訳	①国庫支出金	円	5,696,456	5,696,456	25,807,740	25,807,740	353.0%	1,650,000
	②県支出金	円			22,112,812	22,112,812		
	③地方債	円			19,000,000	19,000,000		1,215,000
	④その他(使用料、雑入等)	円						
	⑤一般財源	円			2,161,323	2,161,323		135,000
	収入合計	円	5,696,456	5,696,456	69,081,875	69,081,875	1112.7%	3,000,000
人件費	①事務事業に携わる正規職員数	人	4	4	2	4	0.0%	
	②年間所要時間	時間	840	1,060	800	960	-9.4%	
	③人件費(②×@ 4,400円)(B)	円	3,696,000	4,664,000	3,520,000	4,224,000	-9.4%	0
	総費用(A+B)	円	3,696,000	4,664,000	72,601,875	73,305,875	1471.7%	3,000,000

5 取組内容	平成27年度に取り組んだ事務事業の内容及び改善内容	
	工事施工、設計	

6 評価	評価の視点	H26評価	H27評価	評価項目	評価結果	評価の理由	
	妥当性	妥当性	A	A	自治体関与の妥当性	1 妥当である	民間によるサービスの実施が不可能なため、市による実施が妥当
目的の妥当性					1 妥当である	市道整備のため妥当	
対象の妥当性					1 妥当である	道路利用形態から妥当	
有効性	有効性	A	A	目標達成度	1 高い		
				類似事業の有無	1 なし	類似事業無し	
				上位施策への貢献度	1 高い	上位施策の目標達成に貢献している。	
効率性	効率性	A	A	コスト効率	1 高い	基準に基づいて実施している。	
				実施主体の適正化	1 適正である	道路管理者以外に委託することはできない。	
				負担割合の適正化	1 適正である	市の負担は適正である。	
	1次評価(課長総括)	A	A	計画どおり事業を実施することが適当	2次評価	不要	
	後の評価(課題及び今後の方針)	道路改良はほぼ完了したが、安全施設等を整備する必要がある。				評価結果	

1 基本項目	事務事業名	市道六郎丸32号線道路改良事業			担当 部署 署	課名	建設課	
	予算事業名	道路改良事業				係名	整備改良係	
	事務区分	自治事務				電話番号	0765-23-1029	
	事業期間	開始年度	平成24年度	終了年度		平成29年度	会計	一般会計
	総合計画 目標名	基本目標2 安全で快適な暮らしやすいまち				款	土木費	
	政策名	7 魅力ある都市基盤の充実				項	道路橋りょう費	
	施策名	16 快適な道路機能の強化				目	道路改良費	
	基本事業名	16-2 生活道路の整備				アウトソーシング導入状況	導入予定なし	
根拠法令				総合計画等への記載	総合計画実施計画に記載			

2 事業概要	事業概要	市道六郎丸32号線は、富山労災病院と県道三箇吉島線を結ぶ道路であり、病院利用者のアクセス道路として利用されている。富山労災病院は建替計画があり、建替後は当路線が主要道路になる予定である。幅員が7m程度と狭いことや歩道が整備されていないため、今後の交通量の増加や、歩行者の安全な通行に支障を来たすおそれがある。そのため、当該路線を拡幅整備し、安全な交通空間の確保を図るものである。
	対象	市道六郎丸32号線の利用者
	手段 (活動指標)	工事施工、用地買収、地権者との交渉
意 (成果指標)	拡幅整備し、安全な交通空間の確保とアクセスの向上	

3 指標	指標名	単位	26年度		27年度			28年度
			計画	実績	計画	実績	達成率	計画
			活動指標	① 事業執行額 (累計)	円	46,500,000	30,319,807	52,319,807
成果指標	②							
	③							
	① 進捗率 (累計)	%	50	33	56	33	0.0%	100
②								
③								

4 コスト情報	区分	単位	26年度		27年度			28年度
			予算現額	決算額	予算現額	決算額	決算増減率	当初予算額
			支出内訳	①需用費	円			
②委託料	円							
③工事請負費	円							10,000,000
④負担金補助及び交付金	円							
⑤その他	円							36,200,000
支出合計 (A)	円	0	0	0	0		46,200,000	
財源内訳	①国庫支出金	円	623,516	623,516				25,410,000
	②県支出金	円						
	③地方債	円						18,711,000
	④その他 (使用料、雑入等)	円						
	⑤一般財源	円						2,079,000
収入合計	円	623,516	623,516	0	0		46,200,000	
人件費	①事務事業に携わる正規職員数	人	5	5	2	4	-20.0%	4
	②年間所要時間	時間	560	720	300	520	-27.8%	520
	③人件費 (②×@ 4,400 円) (B)	円	2,464,000	3,168,000	1,320,000	2,288,000	-27.8%	2,288,000
総費用 (A+B)	円	2,464,000	3,168,000	1,320,000	2,288,000	-27.8%	48,488,000	

5 取組内容	平成27年度に取り組んだ事務事業の内容及び改善内容	
	工事施工、用地買収、地権者との交渉	

6 評価	評価の視点	H26評価	H27評価	評価項目	評価結果	評価の理由	
	妥当性	妥当性	A	A	自治体関与の妥当性	1 妥当である	民間によるサービスの実施が不可能なため、市による実施が妥当
目的の妥当性					1 妥当である	市道整備のため妥当	
対象の妥当性					1 妥当である	道路利用形態から妥当	
有効性	有効性	B	B	目標達成度	3 低い・未実施	用地買収の難航により、目標を達成できなかった。	
				類似事業の有無	1 なし	類似事業無し	
				上位施策への貢献度	1 高い	上位施策の目標達成に貢献している。	
効率性	効率性	A	A	コスト効率	1 高い	基準に基づいて実施している。	
				実施主体の適正化	1 適正である	道路管理者以外に委託することはできない。	
				負担割合の適正化	1 適正である	市の負担は適正である。	
1次評価 (課長総括)	A	A	計画どおり事業を実施することが適当	2次評価	不要		
後の 評価 結果 (課長 及び 今)	当路線は、地区住民や労災病院へのアクセス道路として、建替えに合わせて遅滞なく事業を推進していく必要がある。				評価 結果		

1 基本項目	事務事業名	市道六郎丸33号線道路改良事業			担当 部署 署	課名	建設課	
	予算事業名	道路改良事業				係名	整備改良係	
	事務区分	自治事務				電話番号	0765-23-1029	
	事業期間	開始年度	平成24年度	終了年度		平成27年度	会計	一般会計
	総合目標名	基本目標2 安全で快適な暮らしやすいまち				款	土木費	
	政策名	7 魅力ある都市基盤の充実				項	道路橋りょう費	
	施策名	16 快適な道路機能の強化				目	道路改良費	
基本事業名	16-2 生活道路の整備			アウトソーシング導入状況	導入予定なし			
根拠法令				総合計画等への記載	総合計画実施計画に記載			

2 事業概要	事業概要	市道六郎丸33号線は、富山労災病院と県道三箇吉島線を結ぶ道路であり、病院利用者のアクセス道路として利用されている。富山労災病院は建替計画があり、建替後は当路線が病院への接続道路になる予定である。幅員が5m程度と狭いため、今後の交通量の増加や、歩行者の安全な通行に支障を来すおそれがある。そのため、当該路線を拡幅整備し、安全な交通空間の確保を図るものである。
	対象	市道六郎丸33号線の利用者
	手段(活動指標)	工事施工、用地買収、地権者との交渉
意(成果指標)	拡幅整備し、安全な交通空間の確保とアクセスの向上	

3 指標	指標名	単位	26年度		27年度			28年度
			計画	実績	計画	実績	達成率	計画
活動指標	① 事業執行額(累計)	円	19,400,000	17,218,615	24,400,000	17,218,615	141.7%	22,218,615
	②							
	③							
成果指標	① 進捗率(累計)	%	80	71	100	71	0.0%	100
	②							
	③							

4 コスト情報	区分	単位	26年度		27年度			28年度
			予算現額	決算額	予算現額	決算額	決算増減率	当初予算額
支出内訳	①需用費	円						
	②委託料	円						
	③工事請負費	円						5,000,000
	④負担金補助及び交付金	円						
	⑤その他	円						
	支出合計(A)	円	0	0	0	0		5,000,000
財源内訳	①国庫支出金	円						2,750,000
	②県支出金	円						
	③地方債	円						2,025,000
	④その他(使用料、雑入等)	円						
	⑤一般財源	円						225,000
	収入合計	円	0	0	0	0		5,000,000
人件費	①事務事業に携わる正規職員数	人		3	2	2	-33.3%	2
	②年間所要時間	時間		360	300	300	-16.7%	300
	③人件費(②×@ 4,400円)(B)	円	0	1,584,000	1,320,000	1,320,000	-16.7%	1,320,000
	総費用(A+B)	円	0	1,584,000	1,320,000	1,320,000	-16.7%	6,320,000

5 取組内容	平成27年度に取り組んだ事務事業の内容及び改善内容	
	工事施工、用地買収、地権者との交渉	

6 評価	評価の視点	H26評価	H27評価	評価項目	評価結果	評価の理由
	妥当性	妥当性	A	A	自治体関与の妥当性	1 妥当である
目的の妥当性					1 妥当である	市道整備のため妥当
対象の妥当性					1 妥当である	道路利用形態から妥当
有効性	有効性	A	B	目標達成度	3 低い・未実施	富山労災病院との工程調整により着工できなかった
				類似事業の有無	1 なし	類似事業無し
				上位施策への貢献度	1 高い	上位施策の目標達成に貢献している。
効率性	効率性	A	A	コスト効率	1 高い	基準に基づいて実施している。
				実施主体の適正化	1 適正である	道路管理者以外に委託することはできない。
				負担割合の適正化	1 適正である	市の負担は適正である。
	1次評価(課長総括)	A	A	計画どおり事業を実施することが適当	2次評価	不要
	後の評価(課題及び今後の方針)	当路線は、地区住民や労災病院へのアクセス道路として、建替えに合わせて遅滞なく事業を推進していく必要がある。			評価結果	

1 基本項目	事務事業名	市道江口7号線道路改良事業			担当 部署	課名	建設課	
	予算事業名	道路改良事業				係名	整備改良係	
	事務区分	自治事務				電話番号	0765-23-1029	
	事業期間	開始年度	平成27年度	終了年度		平成31年度	会計	一般会計
	総合計画 目標名	基本目標2 安全で快適な暮らしやすいまち				款	土木費	
	政策名	7 魅力ある都市基盤の充実				項	道路橋りょう費	
	施策名	16 快適な道路機能の強化				目	道路改良費	
基本事業名	16-2 生活道路の整備			アウトソーシング導入状況	導入予定なし			
根拠法令				総合計画等への記載	総合計画に主要事業として記載			

2 事業概要	事業概要	市道江口7号線は、国道8号と市道岡経田立石線を結ぶ路線であり、沿線住民の生活道路として、また、国道8号の渋滞時の抜け道としても利用されている。しかし、幅員が4~5m程度と狭いことから、安全な通行の支障になっている。そのため、当該路線を拡幅整備し、安全な交通空間の確保並びに国道8号と市道岡経田立石線間のアクセスの向上を図るものである。
	対象	市道江口7号線の利用者
	手段 (活動指標)	工事施工、用地買収、地権者との交渉
意 (成果指標)	拡幅整備し、安全な交通空間の確保とアクセスの向上	

3 指標	指標名	単位	26年度		27年度			28年度
			計画	実績	計画	実績	達成率	計画
活動 指標	① 事業執行額 (累計)	円			6,500,000	7,884,000	82.4%	28,884,000
	②							
	③							
成果 指標	① 進捗率 (累計)	%			4	5	0.0%	20
	②							
	③							

4 コスト情報	区分	単位	26年度		27年度			28年度
			予算現額	決算額	予算現額	決算額	決算増減率	当初予算額
支出 内訳	① 需用費	円						
	② 委託料	円			7,398,000	7,398,000		
	③ 工事請負費	円			486,000	486,000		15,000,000
	④ 負担金補助及び交付金	円						
	⑤ その他	円						6,000,000
	支出合計 (A)	円	0	0	7,884,000	7,884,000		21,000,000
財源 内訳	① 国庫支出金	円			4,068,900	4,068,900		11,550,000
	② 県支出金	円						
	③ 地方債	円			2,900,000	2,900,000		8,505,000
	④ その他 (使用料、雑入等)	円						
	⑤ 一般財源	円			915,100	915,100		945,000
	収入合計	円	0	0	7,884,000	7,884,000		21,000,000
人件 費	① 事務事業に携わる正規職員数	人			4	4		4
	② 年間所要時間	時間			540	540		540
	③ 人件費 (②×④ 4,400 円) (B)	円	0	0	2,376,000	2,376,000		2,376,000
	総費用 (A+B)	円	0	0	10,260,000	10,260,000		23,376,000

5 取組内容	平成27年度に取り組んだ事務事業の内容及び改善内容	

6 評価	評価の視点	H26評価	H27評価	評価項目	評価結果	評価の理由	
	妥当性	【選択してください】	A	自治体関与の妥当性	1 妥当である	民間によるサービスの実施が不可能なため、市による実施が妥当	
目的の妥当性				1 妥当である	市道整備のため妥当		
対象の妥当性				1 妥当である	道路利用形態から妥当		
有効性	【選択してください】	A	目標達成度	1 高い	計画に近い値で達成している。		
			類似事業の有無	1 なし	類似事業無し		
			上位施策への貢献度	1 高い	上位施策の目標達成に貢献している。		
効率性	【選択してください】	A	コスト効率	1 高い	基準に基づいて実施している。		
			実施主体の適正化	1 適正である	道路管理者以外に委託することはできない。		
			負担割合の適正化	1 適正である	市の負担は適正である。		
1次評価 (課長総括)	【選択してください】	A	計画どおり事業を実施することが適当	2次評価	不要		
後(課題及び今)	評価結果	市道江口7号線は、国道8号と市道岡経田立石線を結ぶ路線であり、沿線住民の生活道路として、また、国道8号の渋滞時の抜け道としても利用されている。そのため、当該路線を拡幅整備し、安全な交通空間の確保並びに国道8号と市道岡経田立石線間のアクセスの向上を図るもので地区住民や通行する不特定多数の人々に障害がでるため、遅滞なく事業を推進していく必要がある。			評価結果		

1 基本項目	事務事業名	市道岡経田立石線道路改良事業			担当 部署 署	課名	建設課	
	予算事業名	道路改良事業				係名	整備改良係	
	事務区分	自治事務				電話番号	0765-23-1029	
	事業期間	開始年度	平成27年度	終了年度		平成31年度	会計	一般会計
	総合計画 目標名	基本目標2 安全で快適な暮らしやすいまち				科目	土木費	
	政策名	7 魅力ある都市基盤の充実				項目	道路橋りょう費	
	施策名	16 快適な道路機能の強化				目	道路改良費	
基本事業名	16-2 生活道路の整備			アウトソーシング導入状況	導入予定なし			
根拠法令				総合計画等への記載	総合計画に主要事業として記載			

2 事業概要	事業概要	市道岡経田立石線は、国道8号と一般県道沓掛魚津線を結ぶ路線であり、付近住民の生活道路として、また、国道8号の渋滞時の抜け道としても利用されている。また、魚津市立東部中学校の通学路として歩行者の通行が多い。しかし、幅員が5m程度と狭いことから、安全な通行の支障になっている。そのため、当該路線を拡幅整備し、安全な交通空間の確保並びに国道8号と一般県道沓掛魚津線間のアクセスの向上を図るものである。
	対象	市道岡経田立石線の利用者
	手段 (活動指標)	工事施工、用地買収、地権者との交渉
意図 (成果指標)	拡幅整備し、安全な交通空間の確保とアクセスの向上	

3 指標	指標名	単位	26年度		27年度			28年度
			計画	実績	計画	実績	達成率	計画
活動 指標 成果 指標	① 事業執行額 (累計)	円			7,000,000	3,888,000	180.0%	6,288,000
	②							
	③							
	① 進捗率 (累計)	%			7	4	0.0%	7
	②							
	③							

4 コスト情報	区分	単位	26年度		27年度			28年度
			予算現額	決算額	予算現額	決算額	決算増減率	当初予算額
支出 内訳	①需用費	円						
	②委託料	円			3,888,000	3,888,000		
	③工事請負費	円						
	④負担金補助及び交付金	円						2,400,000
	⑤その他	円						
	支出合計 (A)	円	0	0	3,888,000	3,888,000		2,400,000
財源 内訳	①国庫支出金	円			2,138,400	2,138,400		1,320,000
	②県支出金	円						
	③地方債	円			1,500,000	1,500,000		972,000
	④その他 (使用料、雑入等)	円						
	⑤一般財源	円			249,600	249,600		108,000
	収入合計	円	0	0	3,888,000	3,888,000		2,400,000
人件 費	①事務事業に携わる正規職員数	人			3	3		3
	②年間所要時間	時間			340	340		340
	③人件費 (②×@ 4,400 円) (B)	円	0	0	1,496,000	1,496,000		1,496,000
総費用 (A+B)	円	0	0	5,384,000	5,384,000		3,896,000	

5 取組内容	平成27年度に取り組んだ事務事業の内容及び改善内容	

6 評価	評価の視点	H26評価	H27評価	評価項目	評価結果	評価の理由	
	妥当性	【選択してください】	A	自治体関与の妥当性	1 妥当である	民間によるサービスの実施が不可能なため、市による実施が妥当	
目的の妥当性				1 妥当である	市道整備のため妥当		
対象の妥当性				1 妥当である	道路利用形態から妥当		
有効性	【選択してください】	A	目標達成度	1 高い	計画に近い値で達成している。		
			類似事業の有無	1 なし	類似事業無し		
			上位施策への貢献度	1 高い	上位施策の目標達成に貢献している。		
効率性	【選択してください】	A	コスト効率	1 高い	基準に基づいて実施している。		
			実施主体の適正化	1 適正である	道路管理者以外に委託することはできない。		
			負担割合の適正化	1 適正である	市の負担は適正である。		
1次評価 (課長総括)	【選択してください】	A	計画どおり事業を実施することが適当	2次評価	不要		
後(課題及び今)	評価結果		市道岡経田立石線は、国道8号と一般県道沓掛魚津線を結ぶ路線であり、付近住民の生活道路として、また、国道8号の渋滞時の抜け道としても利用されている。また、魚津市立東部中学校の通学路として歩行者の通行が多い。そのため、当該路線を拡幅整備し、安全な交通空間の確保並びに国道8号と一般県道沓掛魚津線間のアクセスの向上を図るもので地区住民や通行する不特定多数の人々に障害がでるため、遅滞なく事業を推進していく必要がある。	評価結果			

1 基本項目	事務事業名	市道東又線道路改良事業				担当 部署 番号 課 名 係 名 電話 番号 会 計 科 目	建設課
	予算事業名	道路改良事業					整備改良係
	事務区分	自治事務					0765-23-1029
	事業期間	開始年度	平成27年度	終了年度	平成29年度		一般会計
	総目標名	基本目標2 安全で快適な暮らしやすいまち					土木費
	政策名	7 魅力ある都市基盤の充実					道路橋りょう費
	施策名	16 快適な道路機能の強化					道路改良費
	基本事業名	16-2 生活道路の整備					アウトソーシング導入状況 導入予定なし
根拠法令					総合計画等への記載	総合計画に主要事業として記載	

2 事業概要	事業概要	市道東又線は、片貝川上流域に位置し、僧ヶ岳県立自然公園内を通り、中部山岳国立公園へと通じる路線である。当該路線沿線には僧ヶ岳、毛勝三山等の山岳地帯があり、自然探訪・ハイキング等多様な利用が期待されていることから、砂利道である現道を舗装することにより、アクセスの向上並びにさらなる観光客の誘致を図るものである。
	対象	市道東又線の利用者、観光客
	手段 (活動指標)	工事施工
意 (成果指標)	舗装整備し、安全な交通空間の確保とアクセスの向上	

3 指標	指標名	単位	26年度		27年度			28年度
			計画	実績	計画	実績	達成率	計画
活動 指標 成果 指標	① 事業執行額 (累計)	円			3,000,000	3,207,600	93.5%	20,207,600
	②							
	③							
	① 進捗率 (累計)	%			9	9	0.0%	58
	②							
	③							

4 コスト情報	区分	単位	26年度		27年度			28年度
			予算現額	決算額	予算現額	決算額	決算増減率	当初予算額
支出 内訳	①需用費	円						
	②委託料	円			3,207,600	3,207,600		
	③工事請負費	円						17,000,000
	④負担金補助及び交付金	円						
	⑤その他	円						
	支出合計 (A)	円	0	0	3,207,600	3,207,600		17,000,000
財源 内訳	①国庫支出金	円			1,764,180	1,764,180		9,350,000
	②県支出金	円						
	③地方債	円			1,200,000	1,200,000		6,885,000
	④その他 (使用料、雑入等)	円						
	⑤一般財源	円			243,420	243,420		765,000
	収入合計	円	0	0	3,207,600	3,207,600		17,000,000
人件 費	①事務事業に携わる正規職員数	人			3	3		
	②年間所要時間	時間			180	180		
	③人件費 (②×@ 4,400 円) (B)	円	0	0	792,000	792,000		0
総費用 (A+B)	円	0	0	3,999,600	3,999,600		17,000,000	

5 取組内容	平成27年度に取り組んだ事務事業の内容及び改善内容	

6 評価	評価の視点	H26評価	H27評価	評価項目	評価結果	評価の理由	
	妥当性	【選択してください】	A	自治体関与の妥当性	1 妥当である	民間によるサービスの実施が不可能なため、市による実施が妥当	
目的の妥当性				1 妥当である	市道整備のため妥当		
対象の妥当性				1 妥当である	道路利用形態から妥当		
有効性	【選択してください】	A	目標達成度	1 高い	計画に近い値で達成している。		
			類似事業の有無	1 なし	類似事業無し		
			上位施策への貢献度	1 高い	上位施策の目標達成に貢献している。		
効率性	【選択してください】	A	コスト効率	1 高い	基準に基づいて実施している。		
			実施主体の適正化	1 適正である	道路管理者以外に委託することはできない。		
			負担割合の適正化	1 適正である	市の負担は適正である。		
1次評価 (課長総括)	【選択してください】	A	計画どおり事業を実施することが適当		2次評価	不要	
後(課題及び今後の方針)	評価結果	市道東又線は、片貝川上流域に位置し、僧ヶ岳県立自然公園内を通り、中部山岳国立公園へと通じる路線である。当該路線沿線には僧ヶ岳、毛勝三山等の山岳地帯があり、自然探訪・ハイキング等多様な利用が期待されていることから、砂利道である現道を舗装することにより、アクセスの向上並びにさらなる観光客の誘致を図るもので地区住民や通行する不特定多数の人々に障害がでるため、遅滞なく事業を推進していく必要がある。				評価結果	

1 基本項目	事務事業名	市道川原吉野線道路改良事業			担当 部署 署	課名	建設課	
	予算事業名	道路改良事業				係名	整備改良係	
	事務区分	自治事務				電話番号	0765-23-1029	
	事業期間	開始年度	平成27年度	終了年度		平成28年度	会計	一般会計
	総合目標名	基本目標2 安全で快適な暮らしやすいまち				款	土木費	
	政策名	7 魅力ある都市基盤の充実				項	道路橋りょう費	
	施策名	16 快適な道路機能の強化				目	道路改良費	
基本事業名	16-2 生活道路の整備			アウトソーシング導入状況	導入予定なし			
根拠法令				総合計画等への記載	総合計画実施計画に記載			

2 事業概要	事業概要	市道川原吉野線は、国道8号バイパス及び県道堀江魚津線と市道住吉吉野線を結ぶ路線であり、沿線住民の生活道路として利用されているが、現況幅員はW=3m程度しかなく、車がすれ違う道路としては狭い道路となっている。そのため、当該箇所を整備し、安全な交通空間の確保並びに接続している道路とのアクセスの向上を図るものである。
	対象	市道川原吉野線
	手段(活動指標)	用地買収、物件補償、工事施工、地権者との交渉、補助金申請等事務
意図(成果指標)	拡幅整備し、安全な交通空間の確保とアクセスの向上	

3 指標	指標名	単位	26年度		27年度			28年度
			計画	実績	計画	実績	達成率	計画
活動指標	① 事業執行額(累計)	円	0	0	5,000,000	4,266,000	117.2%	25,000,000
	②							
	③							
成果指標	① 事業進捗率(累計)	%	0	0	17	14	0.0%	100
	②							
	③							

4 コスト情報	区分	単位	26年度		27年度			28年度
			予算現額	決算額	予算現額	決算額	決算増減率	当初予算額
支出内訳	①需用費	円						
	②委託料	円			4,266,000	4,266,000		
	③工事請負費	円						25,000,000
	④負担金補助及び交付金	円						
	⑤その他	円						
	支出合計(A)	円	0	0	4,266,000	4,266,000		25,000,000
財源内訳	①国庫支出金	円			2,346,300	2,346,300		13,750,000
	②県支出金	円						
	③地方債	円			1,700,000	1,700,000		10,100,000
	④その他(使用料、雑入等)	円						
	⑤一般財源	円			219,700	219,700		1,150,000
	収入合計	円	0	0	4,266,000	4,266,000		25,000,000
人件費	①事務事業に携わる正規職員数	人			3	3		3
	②年間所要時間	時間			540	540		540
	③人件費(②×@ 4,400円)(B)	円	0	0	2,376,000	2,376,000		2,376,000
	総費用(A+B)	円	0	0	6,642,000	6,642,000		27,376,000

5 取組内容	平成27年度に取り組んだ事務事業の内容及び改善内容	
	業務委託 1件	

6 評価	評価の視点	H26評価	H27評価	評価項目	評価結果	評価の理由
	妥当性	【選択してください】	A	自治体関与の妥当性	1 妥当である	民間によるサービスの実施が不可能なため、市による実施が妥当
目的の妥当性				1 妥当である	市道整備のため妥当	
対象の妥当性				1 妥当である	道路利用形態から妥当	
有効性	【選択してください】	A	目標達成度	2 目標どおり	おおそ全体計画に近い値で達成している。	
			類似事業の有無	1 なし	類似事業無し	
			上位施策への貢献度	1 高い	上位施策の目標達成に貢献している。	
効率性	【選択してください】	A	コスト効率	1 高い	基準に基づいて実施している。	
			実施主体の適正化	1 適正である	道路管理者以外に委託することはできない。	
			負担割合の適正化	1 適正である	市の負担は適正である。	
1次評価(課長総括)	【選択してください】	A	計画どおり事業を実施することが適当	2次評価	不要	
後(課題及び方針)	評価結果	今	現況路線の川原吉野線は、狭い箇所幅員が3m程度であることから、安全な通行の支障になっている。地区住民や通行する不特定多数の人々に障害がでるため、遅滞なく事業を推進していく必要がある。	評価結果		